

令和8年度

行政・奄美〈環境文化〉教育プログラム



募集要項

鹿児島大学法文学部履修証明プログラム

## 行政・奄美〈環境文化〉教育プログラム 募集要項

I. 教育プログラムの主旨	2
II. 教育プログラムの目的と目標	2
III. 募集について	
1. 募集人員	3
2. 受講のための資格	3
3. 受講料	3
4. 受講方法	3
5. 受講上の留意点	4
IV. 申請手続きについて	
1. 申請期間	4
2. 申請方法	4
3. 申請内容	4
4. 選考方法	4
5. 受講決定	4
V. 教育プログラムと修了要件について	
1. 開講式・ガイダンス	5
2. 開講期間	5
3. 総受講時間数	5
4. 教育プログラムの構成とレポートについて	5
5. 修了要件について	5
VI. その他	
1. 履修証明書の発行について	5
2. 個人情報の取り扱いについて	5
3. 問い合わせ先	6
VII. 資料	
1. 科目一覧表	7
2. 授業スケジュール	8
3. 講義概要の一覧(シラバス)	9-44

# 『行政・奄美〈環境文化〉教育プログラム』募集要項

## I. 教育プログラムの主旨

2016年、奄美群島国立公園が誕生し、日本で初めて「生態系管理型」と「環境文化型」という新しい考え方が示された。そして2021年、奄美大島と徳之島が世界自然遺産に登録された。これらは、奄美群島の自然・地理、歴史、文化のもつ固有の価値と潜在力が認められたことを意味する。今後、こうした価値や視点を地域の自立的発展に実装していくためには、環境文化を専門的に理解し、行政運営の中で適切に生かせる人材の育成が欠かせない。

一方、この好機を自然保護や観光以外の産業、教育、福祉、地域政策など多様な分野で十分に活かし切れているとは言い難い。「奄美群島成長戦略ビジョン 2033」（2024年策定）は、「つなぐ宝」「稼ぐ力」「支える基盤」を中核に、自然と文化を守りつつ産業振興を進める方向性を示している。今後、これらの方針を各市町村の個性に合わせて実行し、群島全体のカへと結集していくためには、行政職員が住民に寄り添い、その声を丁寧に受けとめながら実現へとつなげていく行政実務能力が不可欠である。

本教育プログラムは、こうした期待に応えるべく、「交流」と「学習」を軸に、奄美群島の自然・地理、歴史、文化などの固有の価値を深く理解し、他地域との比較やデータに基づく分析を通して地域課題の本質を捉え、住民との対話を行政施策へつなげる力を育成することを目的としている。また、伝統芸能や祭事など、地域で続けられてきた文化継承の活動の“意味”や“力”に気づき、新たな活かし方を考え実践する視点と力を養うことも重視している。

本プログラムを通して、受講生は「地域を深く理解し、住民と共に未来をつくる行政人材」として成長することが期待される。

## II. 教育プログラムの目的と目標(修得可能な能力、期待される学修成果)

### 1. 修得可能な能力

- ① 住民と行政をつなぐ対話力・調整力
- ② 比較と分析によって課題を捉える力
- ③ 文化の営みの意味に気づき、新しい活かし方を考え実践する力
- ④ 奄美群島の島ジマの自然・文化・歴史を読み解く力
- ⑤ 自己理解と地域への誇り(アイデンティティ形成)

## 2. 期待される学修成果

本プログラムでは、学びが段階的に積み上がり、次の力へとつながっていく。

- 【① 住民理解】住民の声を引き出し、施策につなげる力
- 【② 課題分析】出身島の課題を比較しながら分析する力
- 【③ 文化の活かし方】文化継承・伝承の意味を理解し新しい活かし方を考え実践する力
- 【④ 地域を読み解く力】島ジマの自然・文化・歴史を説明できる力
- 【⑤ アイデンティティ形成】地域への誇りと行政職員としての姿勢が育つ

## Ⅲ. 募集について

1. 募集人員 36名 ※12市町村より各3名

2. 受講のための資格 以下の①～③の条件を満たす者 ※年齢や職歴は不問

- ① 奄美群島12市町村の行政職員
- ② 開講する科目のすべての授業（現地実習含む）を受講できる者
- ③ 学んだことを仕事に生かすことを目的とする者

3. 受講料 70,000円

- ・ 実習に係る旅費及び保険料等が別途必要です。
- ・ 現地までの交通手段及び宿泊場所は、各自で手配してください。
- ・ 受講料は、受講決定後から速やかにお支払い頂くことになります。

4. 受講方法

- ・ e-learning 学習管理システム『eden』（<https://eden.ac/>）を利用します（各種連絡等の案内も含む）。受講生には、IDとパスワードを発行します。
- ・ 受講形態には、以下の4つの形態があります。

受講形態	説明
① 動画視聴型授業	予め動画に記録された講義動画を受講生が好きな時間に視聴する講義形態。一つの動画は、概ね5分～10分程度で、隙間時間に視聴できるように工夫されています。
② オンライン双方向授業	講師と受講生、受講生同士がオンライン上で、意見交換しながら受講する講義形態（WEB会議システム Zoom もしくはMicrosoft teamsを使います）。
③ 対面授業*	指定された会場において、講師と受講生が直接会って実施する講義形態。具体的には、2日～3日間連続で実施する現地実習のことを指す。
④ 島集合授業	指定された会場において、受講生が直接会って実施する講義形態。具体的には、5つ島を会場にオンラインでつなぐ講義（修了課題兼修了生等交流会）のことを指す。

\*台風等の影響により実施が困難な場合は、延期、もしくは、中止する場合があります。

## 5. 受講上の留意点

受講にあたっては、以下の条件を満たす必要があります。

- ・ インターネット環境が整っている(データ通信料は無制限が望ましい)。
- ・ 講義の時間帯にインターネットに接続し、使用できるパソコンやタブレット端末がある(スマートフォンの使用は推奨しない)。
- ・ 受講に当たってのルールを順守できる。

## IV. 申請手続きについて

### 1. 申請期間

令和8年5月7日(木)10時から、令和8年5月18日(月)まで

### 2. 申請方法

- ①所属する市町村の担当者に事前にお申し出ください。
- ②申請期間に下記のWEB版「受講申込フォーム」より申請ください。

### 3. 申請内容

WEB版「受講申込フォーム」必要事項を記入してください。

URL:<https://kadai-amami-learning.jp>

申請内容	詳細
1) 申請者情報	・氏名(フリガナ) ・生年月日(年齢) ・所属自治体、所属部局課、職位 ・電話番号1(職場)、電話番号2(携帯) ・メールアドレス(個人用)※共有用不可
2) 受講について	・受講希望理由
3) 推薦について	・所属自治体の推薦の有無
4) 受講環境	・使用予定のパソコン・タブレット等(職場、又は、個人) ・通信環境(光回線ケーブル/モバイルWi-Fi等)

### 4. 選考方法

受講者の選抜は、受講資格を満たしているかを確認のうえ決定します。定員を超える応募があった場合は、所属自治体の推薦を優先いたします。

### 5. 受講決定

令和8年5月25日(月)以降に申請者本人に仮通知をメールで配信します。正式の通知案内は、6月上旬を予定しています。

## V. 教育プログラムと修了要件について

1. 開講式・ガイダンス 令和8年6月12日(金) 13時～ オンライン開催  
※終了後に第1回の講義があります。

2. 開講期間 令和8年6月12日(金)～令和9年1月9日(土)  
※閉講式は2月上旬を予定

3. 総受講数 70時間(基礎科目40時間+実習科目30時間)

	動画視聴	オンライン 双方向	対面	島集合	合計 (時間数)
①環境文化の創造と協働形成	0	6.5	0	3	9.5
②環境文化からみた奄美群島	4	6	0	0	10
③環境文化実習	0	5	30	0	35
④地域分析の基礎	1.5	1	0	7	9.5
⑤環境文化特論～行政施策につなぐ	6	0	0	0	6
合計(時間数)	11.5	18.5	30	10	70
合計(科目数)	11	13	2	7	33

## 4. 教育プログラムの構成とレポートについて

本教育プログラムは、下記の5つの科目群より構成されています。各科目群の理解を助けることを目的にアンケート形式のレポート課題を課します。

## 5. 修了要件について

環境文化実習を除く科目の総時間数の8割以上を受講し、科目群ごとに定めるレポート課題に取り組み、合格基準を満たすこと、かつ、環境文化実習を一つ以上受講すること。なお、オンライン双方向授業を欠席した場合は、記録動画を視聴し、指定する代替課題を適切に提出すれば(ただし総時間数の5割を上限とします)受講したと認めます。

## VI. その他

### 1. 履修証明証書の発行について

修了要件を満たした者には、履修証明書を発行し、後日発送します(鹿児島大学の特別の課程における履修証明プログラムに関する規則)。

### 2. 個人情報の取り扱いについて

申請に際し、記入いただいた個人情報は、受講申請の確認、連絡、名簿作成、受講期間中の修学支援、研修時の保険加入、受講者の統計以外の目的に使用いたしません。

### 3. 問い合わせ先

#### (1) 鹿児島大学

〒890-0065 鹿児島市郡元 1-21-30

国立大学法人鹿児島大学 法文学部 奄美教育プログラム事務局

Tel: 099-285-3573 Fax: 099-285-3573

manabi@leh.kagoshima-u.ac.jp

#### (2) 各市町村

島	自治体	部署	担当
奄美大島	奄美市	企画調整課	重井 真人
	龍郷町	総務課	里園 正登志
	大和村	総務課	市田 晋太郎
	宇検村	総務課	森 なぎさ
喜界島	喜界町	総務課行政管理室	永井 昌徳
徳之島	天城町	総務課	福田 光宏
	徳之島町	総務課	嶺岡 真子
	伊仙町	総務課	幸林 尚美
沖永良部島	和泊町	総務課	西田 真咲美
	知名町	総務課	神川 豪
与論島	与論町	総務企画課	町 聡志

## Ⅶ. 資料

### 1. 科目一覧表

科目群	科目群名	科目番号	科目名	時間数	講義形態	開催日	時間	講師	講師の所属
科目群1	環境文化の創造と協働形成	101	オリエンテーション	1	オンライン双方向	6月12日(金)	13:45-14:45	小栗有子	鹿児島大学法文学部
		102	奄美の環境文化入門	1.5	オンライン双方向	6月16日(火)	13:00-14:30	小栗有子	鹿児島大学法文学部
		103	生涯学習支援論 —対話型ファンリテーション	2	オンライン双方向	8月6日(木)	13:00-15:00	酒井祐輔	鹿児島大学法文学部
		104	修了課題兼大学生との交流会	2	オンライン双方向	12月23日(水)	13:00-15:00	小栗有子 馬場 武	鹿児島大学法文学部 鹿児島大学法文学部
		105	修了課題兼修了生等交流会	3	島集合(対面)	1月9日(土)	13:30-16:30	高梨 修 小栗有子 修了生	鹿児島大学法文学部客員研究員 鹿児島大学法文学部 メンター役
科目群2	環境文化からみた奄美群島	106	奄美の環境文化の基礎1 —奄美群島の風土の特性	1	動画視聴	6月12日(金)-1月9日(土)	—	高梨 修	鹿児島大学法文学部客員研究員
		107	行政・環境文化演習1	1.5	オンライン双方向	6月29日(月)	13:00-14:30	高梨 修 小栗有子 平城達哉 藤崎誠之 修了生(喜界島)	鹿児島大学法文学部客員研究員 鹿児島大学法文学部 奄美市立奄美博物館学芸員 修了生(喜界島)
		108	奄美の環境文化の基礎2 —奄美群島の暮らしの特性	1	動画視聴	6月12日(金)-1月9日(土)	—	高梨 修	鹿児島大学法文学部客員研究員
		109	行政・環境文化演習2	1.5	オンライン双方向	7月13日(月)	13:00-14:30	高梨 修 小栗有子 伊地知裕仁 武島智代美 町岡安博	鹿児島大学法文学部客員研究員 鹿児島大学法文学部 和泊町学芸員 修了生(奄美大島) 修了生(与論島)
		110	奄美の環境文化の基礎3 —奄美群島の行政統治の特性	1	動画視聴	6月12日(金)-1月9日(土)	—	高梨 修	鹿児島大学法文学部客員研究員
		111	行政・環境文化演習3	1.5	オンライン双方向	9月14日(月)	13:00-14:30	高梨 修 小栗有子 伊地知裕仁 富永圭一 林 美樹	鹿児島大学法文学部客員研究員 鹿児島大学法文学部 和泊町学芸員 修了生(奄美大島) 修了生(徳之島)
		112	奄美の環境文化の基礎4 —奄美群島の文化遺産の特性	1	動画視聴	6月12日(金)-1月9日(土)	—	久 伸博	元奄美市立奄美博物館
		113	行政・環境文化演習4	1.5	オンライン双方向	10月5日(月)	13:00-14:30	久 伸博 高梨 修 小栗有子 濱田政信 江藤眞良 外山利章 吉住広夢	元奄美市立博物館 鹿児島大学法文学部客員研究員 鹿児島大学法文学部 修了生(奄美大島) 修了生(与論島) 修了生(沖永良部島) 修了生(喜界島)
科目群3	環境文化実習	114	奄美環境文化実習(事前学習 1)	1.5	オンライン双方向	7月27日(月)	13:00-14:30	高梨 修 小栗有子 外内 淳 藤崎誠之 柴 岳海	鹿児島大学法文学部客員研究員 鹿児島大学法文学部 喜界町ふんよ〜り 修了生(喜界島) 修了生(喜界島)
		115	質的調査の技法1	1	オンライン双方向	8月10日(月)	13:00-14:00	小栗有子	鹿児島大学法文学部
		116	奄美環境文化実習1(喜界島)	15	現地実習	8月20日(水)-8月21日(木)	平日2日間 午前開始〜夕方終了	高梨 修 小栗有子	鹿児島大学法文学部客員研究員 鹿児島大学法文学部
		117	奄美環境文化実習(事前準備2)	1.5	オンライン双方向	10月19日(月)	13:00-14:30	高梨 修 小栗有子 竹原祐樹 松岡由紀 常加奈子 大保由佳里	鹿児島大学法文学部客員研究員 鹿児島大学法文学部 徳之島町学芸員 伊仙町学芸員 修了生(徳之島) 修了生(徳之島)
		118	質的調査の技法2	1	オンライン双方向	10月30日(金)	13:00-14:00	小栗有子	鹿児島大学法文学部
		119	奄美環境文化実習2(徳之島)	15	現地実習	11月10日(火)-11月11日(水)	平日2日間 午前開始〜夕方終了	高梨 修 小栗有子	鹿児島大学法文学部客員研究員 鹿児島大学法文学部
科目群4	地域分析の基礎	120	持続可能な地域経営1 —地域人口の安定化に向けて	1	島集合(対面)	7月3日(日)	13:00-14:00	藤山 浩	一般社団法人 持続可能な地域社会総合研究所所長
		121	持続可能な地域経営演習1	1.5	島集合(対面)	7月3日(日)	14:15-15:45	藤山 浩 小栗有子	一般社団法人 持続可能な地域社会総合研究所所長
		122	持続可能な地域経営総合討論1	1	島集合(対面)	7月3日(日)	16:00-17:00	藤山 浩 小栗有子	一般社団法人 持続可能な地域社会総合研究所所長
		123	地域博物館と自治体誌の活用	1.5	動画視聴	6月12日(金)-1月9日(土)	—	高梨 修 農中 至	鹿児島大学法文学部客員研究員 鹿児島大学法文学部
		124	地域博物館と自治体誌活用総合討論	1	オンライン双方向	11月27日(金)	13:00-14:00	高梨 修 農中 至	鹿児島大学法文学部客員研究員 鹿児島大学法文学部
		125	持続可能な地域経営2 —所得を取り戻す地域内循環	1	島集合(対面)	12月7日(月)	13:00-14:00	藤山 浩	一般社団法人 持続可能な地域社会総合研究所所長
		126	持続可能な地域経営演習2	1.5	島集合(対面)	12月7日(月)	14:15-15:45	藤山 浩 小栗有子	一般社団法人 持続可能な地域社会総合研究所所長
		127	持続可能な地域経営総合討論2	1	島集合(対面)	12月7日(月)	16:00-17:00	藤山 浩 小栗有子	一般社団法人 持続可能な地域社会総合研究所所長
科目群5	環境文化特論～行政施策につなぐ	128	環境文化から考える福祉	1	動画視聴	9月1日(火)-1月9日(土)	—	濱田洋一郎 高梨 修	元奄美市総務部長 鹿児島大学法文学部客員研究員
		129	環境文化から考える観光まちづくり	1	動画視聴	9月1日(火)-1月9日(土)	—	中村 修 小栗有子	NPO法人TAMASU代表理事 鹿児島大学法文学部
		130	環境文化から考える地域	1	動画視聴	9月1日(火)-1月9日(土)	—	高岡秀規 小栗有子	徳之島町長 鹿児島大学法文学部
		131	環境文化から考える奄美振興開発	1	動画視聴	9月1日(火)-1月9日(土)	—	陸川 諭 吉沢伸一 小栗有子	鹿児島県財務課長 元喜界町総務課長 鹿児島大学法文学部
		132	環境文化から考える世界自然遺産1	1	動画視聴	9月1日(火)-1月9日(土)	—	平城達哉	奄美市立奄美博物館学芸員
		133	環境文化から考える世界自然遺産2	1	動画視聴	9月1日(火)-1月9日(土)	—	八重樫志郎	岩手県平泉町埋蔵文化A1J344 専門員



### 3. 講義概要の一覧 (講義計画/シラバス)



## 行政・奄美〈環境文化〉教育プログラム

### シラバス

科目群1	奄美環境文化の創造と協働形成				
科目番号	101	科目名	オリエンテーション	時間数	1 時間
担当講師	小栗 有子				
所属・職名	鹿児島大学法文学部法経社会学科・教授				
目的・内容	講義では、これから行政・奄美〈環境文化〉教育プログラムを受講するにあたって、プログラムの概要について解説し、受講上の諸注意について理解することを目的に実施する。受講生は、本講義を通して、日常業務と調整を図りながら計画的にプログラムを受講するための見通しを持ち、受講方法等についての疑問や不安を解消できるようにする。				
受講方法	<input checked="" type="checkbox"/> オンライン双方向授業 ZOOM アプリを使った同時配信・参加型の授業です。 マイクで声を出せる環境を準備ください。カメラで顔を出せる環境を推奨します。 (ZOOM の ID は、『eden』のお知らせ機能を通じて、通知します) ※講義を録画し、後日、期間中いつでも視聴できるようにします。				
事前に読んでおく授業の理解の手助けになる図書	特になし				
自己紹介	専門は、社会教育学と環境教育学です。社会環境だけでなく、自然環境との関わりが人の成長(自己形成)に与える作用について奄美をフィールドに研究しています。2010年より奄美群島の自然と人々との調和ある暮らしの創造に向けて共同研究や学習機会の創出に取り組んでいます。活動の一端は、次に紹介されています。 <a href="https://kagoshima-kankyogaku.com/">https://kagoshima-kankyogaku.com/</a>				
受講生へ一言	公私ともに忙しい中で、今回のプログラムを受講頂きありがとうございます。奄美の「環境文化」は、漠然と感じる「あまみらしさ」(島の名前や集落の名前に置き換えるのもよし)の正体を突き詰め、これからの島・シマづくりの方向性を考え、実践していく際に有効な考え方や方法を与えてくれます。現場のリアルな問題をどのように考え、どう取り組んでいけばよいのか、多くの仲間や講師らと一緒に考え、現実をともに変えていけるようにしましょう！				

## 行政・奄美〈環境文化〉教育プログラム

### シラバス

科目群1	奄美環境文化の創造と協働形成				
科目番号	102	科目名	奄美の環境文化入門	時間数	1.5 時間
担当講師	小栗 有子				
所属・職名	鹿児島大学法文学部法経社会学科・教授				
目的・内容	<p>この講義は、奄美群島12市町村に行政職員として働く者にとって、70時間におよぶ行政・奄美〈環境文化〉教育プログラムを受講することの意味がどこにあるのかについて、次に示す情報を提供しながら参加者と考え、共有・確認することを目的とします。</p> <p>① 「環境文化」概念が登場する背景と奄美群島にとっての意味                  ② 「環境文化」をめぐるこれまでの取組(成果・課題)                  ③ カリキュラムの構成と特徴</p>				
受講方法	<p><input checked="" type="checkbox"/>オンライン双方向授業                  ZOOM アプリを使った同時配信・参加型の授業です。                  マイクで声を出せる環境を準備ください。カメラで顔を出せる環境を推奨します。                  (ZOOM の ID は、『eden』のお知らせ機能を通じて、通知します)                  ※講義を録画し、後日、期間中いつでも視聴できるようにします。</p>				
事前に読んでおく授業の理解の手助けになる図書	<p>・養老孟司・C・W ニコル・兼高かおるほか『屋久島 知の巨人たち ムック』キルティ株式会社、2022                  ・鹿児島大学鹿児島環境学研究会『奄美大島 100 人の環境文化』南方新社、2025</p>				
自己紹介	<p>専門は、社会教育学と環境教育学です。社会環境だけでなく、自然環境との関わりが人の成長(自己形成)に与える作用について奄美をフィールドに研究しています。2010年より奄美群島の自然と人々との調和ある暮らしの創造に向けて共同研究や学習機会の創出に取り組んでいます。活動の一端は、次に紹介されています。<a href="https://kagoshima-kankyogaku.com/">https://kagoshima-kankyogaku.com/</a></p>				
受講生へ一言	<p>公私ともに忙しい中で、今回のプログラムを受講頂きありがとうございます。奄美の「環境文化」は、漠然と感じる「あまみらしさ」(島の名前や集落の名前に置き換えるのもよし)の正体を突き詰め、これからの島・シマづくりの方向性を考え、実践していく際に有効な考え方と方法を与えてくれます。現場のリアルな問題をどのように考え、どう取り組んでいけばよいのか、多くの仲間や講師らと一緒に考え、現実をともに変えていけるようにしましょう！</p>				

## 行政・奄美〈環境文化〉教育プログラム

### シラバス

科目群1	奄美環境文化の創造と協働形成				
科目番号	103	科目名	生涯学習支援論 -対話型ファシリテーション	時間数	2時間
担当講師	酒井 祐輔				
所属・職名	鹿児島大学法文学部法経社会学科・准教授				
目的・内容	講義の目的は、奄美の「環境文化」について地域から学ぶためのその方法や理論について、「傾聴」や「対話」、「ファシリテーション」等のキーワードから掘り下げて考えます。講義ではグループワークを行うため、ビデオカメラ機能をオンにし、声を出することができる環境での受講をお願いします。				
受講方法	<input checked="" type="checkbox"/> オンライン双方向授業 ZOOM アプリを使った同時配信・参加型の授業です。 マイクで声を出せる環境を準備ください。カメラで顔を出せる環境を推奨します。 (ZOOM の ID は、『eden』のお知らせ機能を通じて、通知します) ※講義を録画し、後日、期間中いつでも視聴できるようにします。				
事前に読んでおく授業の理解の手助けになる図書	<ul style="list-style-type: none"> <li>・パウロ・フレイル『伝達か対話かー関係変革の教育学』亜紀書房、1982。</li> <li>・東山紘久『プロカウンセラーの聞く技術』創元社、2000。</li> <li>・中田豊一『対話型ファシリテーションの手ほどき』ムラのミライ、2015。</li> <li>・ケネス・J・ガーゲン、メアリー・ガーゲン『現実はいつも対話から生まれる』ディスカヴァー・トゥエンティワン、2018。</li> <li>・斎藤勇樹・塩瀬隆之『問いのデザイン 創造的対話のファシリテーション』学芸出版社、2020。</li> <li>・ケイト・マーフィ(篠田真貴子監訳・松丸さとみ訳)『LISTEN——知性豊かで創造力がある人になれる』日経 BP、2021。</li> <li>・石岡丈昇『エスノグラフィ入門』筑摩書房、2024。</li> </ul>				
自己紹介	大学では「社会教育実習Ⅱ」、「多文化共生の地域づくり」「地域づくりとNPO」等の授業を担当しています。学外では、鹿児島県社会教育委員や出水市多文化共生推進協議会委員等を務めています。				
受講生へ一言	受講いただく皆さんの奄美に関する課題意識や、環境文化の価値に対する思いから多くを学ばせていただきたいと思います。よろしくお願いします。				

## 行政・奄美〈環境文化〉教育プログラム

### シラバス

科目群1	奄美環境文化の創造と協働形成				
科目番号	104	科目名	修了課題兼大学生との交流会	時間数	2時間
担当講師	小栗 有子・馬場 武・鹿児島大学の学生				
所属・職名	鹿児島大学法文学部法経社会学科・教授 鹿児島大学法文学部法経社会学科・講師				
目的・内容	講義では、本プログラム全体を通して各自が学んできたことを振り返り、出身の島・自治体の特性について紹介をしながら、鹿児島大学の学生と交流します。講義の目的は、第三者に語ることで各自の学びや理解したことを整理すると同時に、大学生と意見交換を行うことを通して、外から見える奄美群島や大学生の関心について知り、プログラムの学びを今後どのように生かしていくかについての示唆を得る機会とする。なお、事前に大学生への質問事項について準備を行う予定である。				
受講方法	<input checked="" type="checkbox"/> 島集合(対面)授業 奄美大島、喜界島、徳之島、沖永良部島、与論島の5つの島毎に対面会場を設け、受講生は最寄りの会場に集まり、5つの島をオンラインでつなぐ授業です。 (ZOOMのIDは、『eden』のお知らせ機能を通じて、通知します) ※講義で録画し、後日、期間中いつでも視聴できるようにします。				
事前に読んでおく授業の理解の手助けになる図書	特になし				
自己紹介	101と同じ。 馬場:経営学やマーケティングの観点から、地域における価値創造の仕組みや動きについて研究しています。近年は、持続可能な豊かな共同体の形成と住民の幸福度の関係について、奄美市を対象とした研究も進めています。				
受講生へ一言	本講義は、初めての試みとして、プログラム受講生と鹿児島大学の学生とが交流する内容となります。				

## 行政・奄美〈環境文化〉教育プログラム

### シラバス

科目群1	奄美環境文化の創造と協働形成				
科目番号	105	科目名	修了課題兼修了生等交流会	時間数	3 時間
担当講師	小栗 有子・高梨 修・修了生				
所属・職名	鹿児島大学法文学部法経社会学科・教授 鹿児島大学法文学部附属「鹿児島の近現代」教育研究センター・客員研究員 兼大和村教育委員会環境文化学芸員				
目的・内容	本講義の目的は、本プログラム全体を通して各自が学んできたことを出身の各島・自治体間で確認・共有するとともに、その学びを次の実践につないでいくために行政職という枠を超えて、多様な職種や分野、異なる立場や年齢をもつ者たちと出会うことです。当日は、各自、もしくは、チームで、今回学んだことの生かし方について報告し、過去に奄美〈環境文化〉教育プログラムを学んだ者たちも参加して、フィードバックをし合いながら学習・交流します。				
受講方法	<input checked="" type="checkbox"/> 島集合(対面)授業 奄美大島、喜界島、徳之島、沖永良部島、与論島の 5 つの島毎に対面会場を設け、受講生は最寄りの会場に集まり、5 つの島をオンラインでつなぐ授業です。 (ZOOM の ID は、『eden』のお知らせ機能を通じて、通知します) ※講義で録画し、後日、期間中いつでも視聴できるようにします。				
事前に読んでおく授業の理解の手助けになる図書	川嶋直『KP法 シンプルに伝える紙芝居プレゼンテーション』みくに出版				
自己紹介	101と106に同じ				
受講生へ一言	本プログラム最後の科目・島集合(対面)授業です。皆さんが学んできた奄美〈環境文化〉について同じように学び、アメンバーのように縦横無尽につながり、すでに各方面で活動しているメンバーが参集します。新たな出会いを通して、皆さんのこれからの活動の糧になっていくことを願っています。				

## 行政・奄美〈環境文化〉教育プログラム

### シラバス

科目群2	環境文化からみた奄美群島				
科目番号	106	科目名	奄美の環境文化の基礎1 －奄美群島の風土の特性	時間数	1 時間
担当講師	高梨 修				
所属・職名	鹿児島大学法文学部附属「鹿児島の近現代」教育研究センター・客員研究員 兼大和村教育委員会環境文化学芸員				
目的・内容	講義の目的は、奄美群島をめぐる独特の「環境」の総合的理解を図り、その特徴をよく理解して、観光・産業領域や教育・福祉領域等に貢献できる付加価値化、地域資源確認の視点等を身につけることです。そのための方法論として、「環境文化」という概念を理解しながら、奄美群島各島について総合的に解説していきます。「科目 106」では、奄美群島の風土の特性について、気候・地形・水環境等の暮らしの基盤の諸相を概観しながら、各島における風土の特性について考えていきます。				
受講方法	<input checked="" type="checkbox"/> 動画視聴授業 e ラーニング学習管理システム(LMS)『eden』から視聴してください。 ※受講後は、アンケート形式のレポートに取り組み、提出してください。				
事前に読んでおく 授業の理解の手助け になる図書	・奄美市立奄美博物館編、『博物館が語る奄美の自然・歴史・文化』、南方新社、2021 年 ・小野寺浩、『世界遺産 奄美』、南方新社、2022 年 ・小野寺浩、「文化環境論という考え方―奄美という地域について―」、『スタディレポート』No.14、ブレック研究、2009 年 <a href="http://www.prec.co.jp/research/report/pdf/14008.pdf">http://www.prec.co.jp/research/report/pdf/14008.pdf</a>				
自己紹介	博物館学芸員として、奄美群島はどのような地域なのか、その自然・歴史・文化を総合的に解説する仕事をしてきました。その一端はこちらでもご覧になれます。 <a href="https://x.gd/sb6n5">YouTube 奄美博物館公式チャンネル https://x.gd/sb6n5</a> 奄美・沖縄地域をフィールドとしながら、国文学→歴史学・博物館学→心理学と領域を拓けながら奄美の勉強をしてきました。				
受講生へ一言	奄美大島・徳之島が、世界自然遺産に登録されましたが、奄美群島はこの 2 島ですべて語れるわけではありません。個性ある 8 島の特徴をよく理解していただいて、これからの時代の地域デザイン(行政施策)に参考になることがあれば幸いです。環境文化論はあなたが暮らす地域が主役です。				

## 行政・奄美〈環境文化〉教育プログラム

### シラバス

科目群2	環境文化からみた奄美群島				
科目番号	107	科目名	行政・環境文化演習1	時間数	1.5 時間
担当講師	小栗 有子 ・ 高梨 修				
TA(ティーチング アシスタント)	平城 達哉 ・ 藤崎 誠之 ・ 森岡 峻一				
所属・職名	鹿児島大学法文学部・教授 鹿児島大学法文学部附属「鹿児島の近現代」教育研究センター・客員研究員 兼大和村教育委員会環境文化学芸員 奄美市立奄美博物館学芸員・修了生(喜界島)・修了生(沖永良部島)				
目的・内容	本講義は、科目 106「奄美の環境文化の基礎1－奄美群島の風土の特性」の受講を踏まえた総合講義です。講義の目的は、科目 106 について理解を深め、内容の定着をはかることです。講義では、事前に提出のあったレポートを踏まえて関連科目の補足説明を行いつつ、受講生同士で感想や意見の交換を行いながら、共通理解を高め合います。なお、意見交換では TA(ティーチング・アシスタント)が、サポートします。				
受講方法	<input checked="" type="checkbox"/> オンライン双方向授業 ZOOM アプリを使った同時配信・参加型の授業です。 マイクで声を出せる環境を準備ください。カメラで顔を出せる環境を推奨します。 (ZOOM の ID は、『eden』のお知らせ機能を通じて、通知します) ※講義を録画し、後日、期間中いつでも視聴できるようにします。				
事前に読んでおく 授業の理解の手助け になる図書	科目 106を事前に視聴しておくようにしてください。講義で紹介する文献等に目を通すことを推奨します。				
自己紹介	科目101と科目 106に同じ				
受講生へ一言	視聴した動画について、奄美群島全域から集まる行政職員同士で、講師も交えながらオンライン上で話し合える貴重な時間です。リアルタイムでぜひ参加できるようにしましょう！				

## 行政・奄美〈環境文化〉教育プログラム

### シラバス

科目群 2	環境文化からみた奄美群島				
科目番号	108	科目名	奄美の環境文化の基礎2 －奄美群島の暮らしの特性	時間数	1 時間
担当講師	高梨 修				
所属・職名	鹿児島大学法文学部附属「鹿児島の近現代」教育研究センター・客員研究員 兼大和村教育委員会環境文化学芸員				
目的・内容	講義の目的は、奄美群島をめぐる独特の「環境」の総合的理解を図り、その特徴をよく理解して、観光・産業領域や教育・福祉領域等に貢献できる付加価値化、地域資源確認の視点等を身につけることです。そのための方法論として、「環境文化」という概念を理解しながら、奄美群島各島について総合的に解説していきます。「科目 108」では、奄美群島の暮らしの特性について、その等質性と異質性に注意して概観しながら、それぞれの島で暮らしているみなさんの立ち位置を確認して、自分たちの島の環境文化の特徴について考えていきます。				
受講方法	<input checked="" type="checkbox"/> 動画視聴授業 e ラーニング学習管理システム(LMS)『eden』から視聴してください。 受講後は、アンケート形式のレポートに取り組み、提出してください。				
事前に読んでおく授業の理解の手助けになる図書	・奄美市立奄美博物館編、『博物館が語る奄美の自然・歴史・文化』、南方新社、2021 年 ・松下志朗・下野敏見編、街道の日本史 55『鹿児島の湊と薩南諸島』、吉川弘文館、2002 年				
自己紹介	科目 106 に同じ				
受講生へ一言	科目 106 に同じ				

## 行政・奄美〈環境文化〉教育プログラム

### シラバス

科目群2	環境文化からみた奄美群島				
科目番号	109	科目名	行政・環境文化演習2	時間数	1.5 時間
担当講師	小栗 有子 ・ 高梨 修				
TA(ティーチング アシスタント)	伊地知 裕仁 ・ 武島 智代美 ・ 町岡 安博				
所属・職名	鹿児島大学法文学部・教授 鹿児島大学法文学部附属「鹿児島の近現代」教育研究センター・客員研究員 兼大和村教育委員会環境文化学芸員 和泊町歴史民俗資料館・学芸員・修了生(奄美大島)・修了生(与論島)				
目的・内容	本講義は、科目「奄美の環境文化の基礎2-奄美群島の暮らしの特性(科目 108)」の受講を踏まえた総合講義です。講義の目的は、科目 108について理解を深め、内容の定着をはかることです。講義では、事前に提出のあったレポートを踏まえて関連科目の補足説明を行いつつ、受講生同士で感想や意見の交換を行いながら、共通理解を高め合います。				
受講方法	<input checked="" type="checkbox"/> オンライン双方向授業 ZOOM アプリを使った同時配信・参加型の授業です。 マイクで声を出せる環境を準備ください。カメラで顔を出せる環境を推奨します。 (ZOOM の ID は、『eden』のお知らせ機能を通じて、通知します) ※講義を録画し、後日、期間中いつでも視聴できるようにします。				
事前に読んでおく 授業の理解の手助け になる図書	科目 108を事前に視聴しておくようにしてください。講義で紹介する文献等に目を通すことを推奨します。				
自己紹介	科目101と科目 106 に同じ。				
受講生へ一言	視聴した動画について、奄美群島全域から集まる行政職員同士で、講師も交えながらオンライン上で話し合える貴重な時間です。リアルタイムでぜひ参加できるようにしましょう！				

## 行政・奄美〈環境文化〉教育プログラム

### シラバス

科目群2	環境文化からみた奄美群島				
科目番号	110	科目名	奄美の環境文化の基礎3 －奄美群島の行政統治の特性	時間数	1 時間
担当講師	高梨 修				
所属・職名	鹿児島大学法文学部附属「鹿児島の近現代」教育研究センター・客員研究員 兼大和村教育委員会環境文化化学芸員				
目的・内容	講義の目的は、奄美群島をめぐる独特の「環境」の総合的理解を図り、その特徴をよく理解して、観光・産業領域や教育・福祉領域等に貢献できる付加価値化、地域資源確認の視点等を身につけることです。そのための方法論として、「環境文化」という概念を理解しながら、奄美群島各島について総合的に解説していきます。「科目 110」では、奄美群島の行政統治の特性について、旧石器時代から現代まで、約 3 万年にわたる歴史を通時的に辿りながら、日本歴史を理解する上で欠かせないとされる奄美群島の行政統治の特徴を考えていきます。				
受講方法	<input checked="" type="checkbox"/> 動画視聴授業 e ラーニング学習管理システム(LMS)『eden』から視聴してください。 ※受講後は、アンケート形式のレポートに取り組み、提出してください。				
事前に読んでおく授業の理解の手助けになる図書	<ul style="list-style-type: none"> <li>・奄美市立奄美博物館編、『博物館が語る奄美の自然・歴史・文化』、南方新社、2021 年</li> <li>・基俊太郎、『島を見直す』、南海日日新聞社、1993 年</li> <li>・高梨修、「レジリエンス生み出す奄美群島の「環境」」、第 60 回記念黎明館企画特別展図録『ほこらしや奄美 海と山の織り成すシマの世界』、鹿児島県歴史・美術センター黎明館、2021 年(希望者には PDF 版をお渡します)</li> </ul>				
自己紹介	科目 106 に同じ				
受講生へ一言	科目 106 に同じ				

## 行政・奄美〈環境文化〉教育プログラム

### シラバス

科目群 2	環境文化からみた奄美群島				
科目番号	111	科目名	行政・環境文化演習3	時間数	1.5 時間
担当講師	小栗 有子 ・ 高梨 修				
TA(ティーチング アシスタント)	伊地知 裕仁 ・ 富永 圭一 ・ 林 美樹				
所属・職名	鹿児島大学法文学部・教授 鹿児島大学法文学部附属「鹿児島の近現代」教育研究センター・客員研究員 兼大和村教育委員会環境文化学芸員 和泊町歴史民俗資料館・学芸員・修了生(奄美大島)・修了生(徳之島)				
目的・内容	本講義は、科目 109「奄美の環境文化の基礎3-奄美群島の行政統治の特性」の受講を踏まえた総合講義です。講義の目的は、科目 109について理解を深め、内容の定着をはかることです。講義では、事前に提出のあったレポートを踏まえて関連科目の補足説明を行いつつ、受講生同士で感想や意見の交換を行いながら、共通理解を高め合います。				
受講方法	<input checked="" type="checkbox"/> オンライン双方向授業 ZOOM アプリを使った同時配信・参加型の授業です。 マイクで声を出せる環境を準備ください。カメラで顔を出せる環境を推奨します。 (ZOOM の ID は、『eden』のお知らせ機能を通じて、通知します) ※講義を録画し、後日、期間中いつでも視聴できるようにします。				
事前に読んでおく と授業の理解の手 助けになる図書	科目 109 を事前に視聴しておくようにしてください。				
自己紹介	科目101と科目 106に同じ。				
受講生へ一言	視聴した動画について、奄美群島全域から集まる行政職員同士で、講師も交えながらオンライン上で話し合える貴重な時間です。リアルタイムでぜひ参加できるようにしましょう！				

## 行政・奄美〈環境文化〉教育プログラム

### シラバス

科目群2	環境文化からみた奄美群島				
科目番号	112	科目名	奄美の環境文化の基礎4 －奄美群島の文化遺産の特性	時間数	1 時間
担当講師	久 伸博				
所属・職名	元奄美市立奄美博物館・館長				
目的・内容	この講座では、奄美群島は、どのような自然的環境や地理的環境があり、どのような歴史を辿り、どのような文化が醸成されてきたのか。奄美の自然・歴史・文化を理解するために欠かせない文化遺産群の理解を深めることを目的としています。				
受講方法	<input checked="" type="checkbox"/> 動画視聴授業 e ラーニング学習管理システム(LMS)『eden』から視聴してください。 ※動画は、全部で 5～7本(各5分～12 分程度)あります。関心のあるテーマから自由に選択し、期間内(行政・環境文化総合討論3の前まで)に、総時間数 1 時間以上を視聴してください。				
事前に読んでおく授業の理解の手助けになる図書	<ul style="list-style-type: none"> <li>・『博物館が語る奄美の自然・歴史・文化』、奄美市立奄美博物館編、南方新社、2021 年</li> <li>・『琉球弧の視点から』島尾敏雄、講談社、1969 年</li> <li>・『沖縄・奄美と日本』谷川健一・大山麟五郎・高良倉吉、同成社、1986 年</li> <li>・『古代・中世の境界領域』池田榮史、高志書院、2008 年</li> <li>・『琉球の成立』吉成直樹、南方新社、2011 年</li> <li>・『薩摩侵攻 400 年未来への羅針盤』琉球新報社・南海日日新聞社編、琉球新報社、2011 年</li> <li>・『奄美復帰史』村山家国、南海日日新聞社、1971 年</li> <li>・『奄美の暮らしと儀礼』田畑千秋、第一書房、1992 年</li> <li>・『奄美の民俗』田畑英勝、法政大学出版局、1976 年</li> <li>・『奄美の文化』島尾敏雄編、法政大学出版局、1976 年</li> <li>・『奄美生活誌』恵原義盛、木耳社、1973 年</li> <li>・『島を見直す』基俊太郎、南海日日新聞社、1993 年ほか、奄美に関する自然・歴史・文化に関する図書</li> </ul>				

<p>自己紹介</p>	<p>1960 年生まれ、両親は大島郡喜界町荒木出身。主に龍郷町で育つ。  1984 年 3 月、岡山理科大学基礎理学科人類学コースを卒業  1985 年 7 月、名瀬市(現奄美市)職員(学芸員)として採用。  1987 年 7 月、名瀬市立奄美歴史民俗資料館(現奄美市立奄美博物館)開館。  2021 年 3 月、奄美市職員(奄美市立奄美博物館)を定年退職  35 年 9 か月の勤務で主に民俗分野を中心に担当。併せて地域の自然や歴史的な背景から地域の文化、文化の変遷について学びを深め、地域の課題解決や地域活動の活性化に役立てていきたいと考えています。</p>
<p>受講生へ一言</p>	<p>奄美群島の非常に複雑な歴史的な背景や自然環境、地理的な環境を理解しながら地域の事を知り、地域課題の解決及び地域活動の活性化などの手掛かりを探していくことに役立つことを願っています。  先人たちが遺した断片的な事象(文化遺産)にどのような情報があるのか、引き出していく(点と点を線に、そして面としてストーリー作りをしていく)ことに努めていきたいと考えています。  当事者意識を持ちながら、地域の自然や歴史、文化についての理解を図り、各地域・各部署での施策計画や事業推進をしていただくことを願っています(近年、各種施策の計画や事業推進においてコンサルなど外部任せが非常に多く、自分たちの地域に対しての当事者意識の希薄さを懸念しています)。</p>

## 行政・奄美〈環境文化〉教育プログラム

### シラバス

科目群 2	環境文化からみた奄美群島				
科目番号	113	科目名	行政・環境文化演習4	時間数	1.5 時間
担当講師	小栗 有子 ・ 高梨 修 ・ 久 伸博				
TA(ティーチング アシスタント)	濱田政信 ・ 江藤善真 ・ 外山利章 ・ 吉住広夢				
所属・職名	鹿児島大学法文学部・教授 鹿児島大学法文学部附属「鹿児島の近現代」教育研究センター・客員研究員 兼大和村教育委員会環境文化学芸員 修了生(奄美大島)・修了生(与論島)・修了生(沖永良部島)・修了生(喜界島)				
目的・内容	本講義は、科目 111「奄美の環境文化の基礎4-奄美群島の文化遺産の特性」の受講を踏まえた総合講義です。講義の目的は、科目 111について理解を深め、内容の定着をはかることです。講義では、事前に提出のあったレポートを踏まえて関連科目の補足説明を行いつつ、受講生同士で感想や意見の交換を行いながら、共通理解を高め合います。				
受講方法	<input checked="" type="checkbox"/> オンライン双方向授業 ZOOM アプリを使った同時配信・参加型の授業です。 マイクで声を出せる環境を準備ください。カメラで顔を出せる環境を推奨します。 (ZOOM の ID は、『eden』のお知らせ機能を通じて、通知します) ※講義を録画し、後日、期間中いつでも視聴できるようにします。				
事前に読んでおく と授業の理解の手 助けになる図書	科目 109 を事前に視聴しておくようにしてください。				
自己紹介	科目101、科目 106、科目 112 に同じ。				
受講生へ一言	視聴した動画について、奄美群島全域から集まる行政職員同士で、講師も交えながらオンライン上で話し合える貴重な時間です。リアルタイムでぜひ参加できるようにしましょう！				

## 行政・奄美〈環境文化〉教育プログラム

### シラバス

科目群3	環境文化実習				
科目番号	114	科目名	奄美環境文化実習(事前学習1)	時間数	1.5 時間
担当講師	小栗 有子 ・ 高梨 修				
TA(ティーチング アシスタント)	外内 淳 ・ 藤崎 誠之 ・ 栄 岳海				
所属・職名	鹿児島大学法文学部・教授 鹿児島大学法文学部附属「鹿児島の近現代」教育研究センター・客員研究員 兼大和村教育委員会環境文化学芸員 喜界島シマあるきガイドよんよーり・喜界島・修了生(喜界島)・修了生(喜界島)				
目的・内容	本講義は、「奄美環境文化実習1(喜界島)」(科目 115)に向けた事前学習です。講義では、これまで学んできた科目 106 と科目 108 の内容を振り返り、「奄美環境文化実習1」の目的、内容、方法等について確認することを目的とします。講義では、講師の解説に加えて、受講生同士の意見交換を通して、実習に期待することや留意すべき点等について共通理解をはかります。				
受講方法	<input checked="" type="checkbox"/> オンライン双方向授業 ZOOM アプリを使った同時配信・参加型の授業です。 マイクで声を出せる環境を準備ください。カメラで顔を出せる環境を推奨します。 (ZOOM の ID は、『eden』のお知らせ機能を通じて、通知します) ※講義を録画し、後日、期間中いつでも視聴できるようにします。				
事前に読んでおく 授業の理解の手助け になる図書	これまでの講義、特に科目 106、科目108 の「奄美の環境文化の基礎」シリーズを復習しておくといでしょう。				
自己紹介	科目101 と科目 106 科目に同じ				
受講生へ一言	奄美環境文化実習に臨む直前のオンライン双方の授業となります。実習の目的や内容の詳細のほかに、当日の集合や解散時間等のスケジュールについても確認しますので、ぜひ参加するようにしてください。				

## 行政・奄美〈環境文化〉教育プログラム

### シラバス

科目群3	環境文化実習				
科目番号	115	科目名	質的調査の技法1	時間数	1時間
担当講師	小栗 有子				
所属・職名	鹿児島大学法文学部・教授				
目的・内容	<p>本講義は、「奄美環境文化実習1(喜界島)」(科目 115)に向けた事前学習の一環として実施します。講義では、実習において課長インタビューを行うことを踏まえて、社会調査(質的調査)の技法の基礎について解説し、何を目的にどのような観点に留意して準備をすればよいかについて理解を深めます。講義の目的は、課長インタビューに向けて準備し、よりよい内容にするために必要な知見を得ることですが、量的調査と質的調査の違いの基本をおさえるなど、行政実務や日常生活においても参考にしてもらえたいことを目指します。</p>				
受講方法	<p><input checked="" type="checkbox"/>オンライン双方向授業          ZOOM アプリを使った同時配信・参加型の授業です。          マイクで声を出せる環境を準備ください。カメラで顔を出せる環境を推奨します。          (ZOOM の ID は、『eden』のお知らせ機能を通じて、通知します)          ※講義を録画し、後日、期間中いつでも視聴できるようにします。</p>				
事前に読んでおく 授業の理解の手助け になる図書	<p>三井さよ・三谷はるよほか『はじめての社会調査』世界思想社          岸政彦・石岡丈昇・丸山里美『質的社会調査の方法』有斐閣ストゥディア          佐藤郁也『社会調査の考え方(上)(下)』東京大学出版会          宮内泰介『自分で調べる技術』岩波アクティブ新書 117、岩波書店</p>				
自己紹介	科目101と同じ				
受講生へ一言	<p>質的調査の技法は、二つの実習を挟んで、1と2が開講されます。技法2は、技法1を踏まえて新しい内容を提供する予定ですので、社会の実習に参加しない受講生も必ず受講するようにしてください。</p>				

## 行政・奄美〈環境文化〉教育プログラム

### シラバス

科目群3	環境文化実習				
科目番号	116	科目名	奄美環境文化実習1(喜界島)	時間数	15 時間
担当講師	小栗 有子 ・ 高梨 修				
所属・職名	鹿児島大学法文学部・教授 鹿児島大学法文学部附属「鹿児島の近現代」教育研究センター・客員研究員 兼大和村教育委員会環境文化化学芸員				
目的・内容	<p>実習の目的は、座学の講義で修得した〈環境文化〉に関する学知(学際的な知識/科学知)を実際に島に訪れて、身体感覚をもって確認し、〈環境文化〉理解の深め方と生かし方について実地で学ぶことです。実習では、今後の行政施策という観点から、〈環境文化〉の価値を理解し、その生かし方について、島・シマ毎の個性を踏まえたうえで、共通の課題や連携の在り方についても模索します。</p> <p>実習では、目に見えない世界である島民の心性に触れながら、次の事柄を体験的に学習します。①島・シマの自然の地理特性と歴史を知る、②生きた環境文化を体験する、③人と出会う(想いを知る)、④想いや考え・学びを共有する。また、環境文化は、過去のみを継承するだけでなく、現代に合わせて創造していくことが求められており、島・シマがこれから考えていくべき課題や論点をとりあげ、受講生が島民と共に考える機会を用意します。</p>				
受講方法	<input checked="" type="checkbox"/> 対面授業 現地集合、現地解散となります。移動手段や宿泊は、各自で手配・負担してください。詳細は、e ラーニング学習管理システム(LMS)『eden』で確認ください。				
事前に読んでおく授業の理解の手助けになる図書	事前学習の回である科目114、並びに、科目 103 と科目 115 を視聴の上参加するようにしてください。また、科目 106と科目 108 を復習しておくといいでしょう。				
自己紹介	科目101と科目 106 に同じ。				
受講生へ一言	五感を研ぎ澄まし、全身で奄美の環境文化を学び、大いに語り合いましょう！				

## 行政・奄美〈環境文化〉教育プログラム

### シラバス

科目群3	環境文化実習				
科目番号	117	科目名	奄美環境文化実習(事前学習2)	時間数	1.5 時間
担当講師	小栗 有子 ・ 高梨 修				
TA(ティーチング アシスタント)	竹原 祐樹 ・ 松岡 由紀 ・ 常 加奈子 ・ 大保 由佳里				
所属・職名	鹿兒島大学法文学部・教授 鹿兒島大学法文学部附属「鹿兒島の近現代」教育研究センター・客員研究員 兼大和村教育委員会環境文化学芸員 徳之島町教育委員会学芸員・伊仙町教育委員会学芸員 修了生(徳之島)・修了生(徳之島)				
目的・内容	本講義は、「奄美環境文化実習2(徳之島)」(科目 119)に向けた事前学習です。講義では、これまで学んできた科目110と科目112の内容を振り返り、「奄美環境文化実習1」の目的、内容、方法等について確認することを目的とします。同時に、科目116「奄美環境文化実習1(喜界島)」を振り返り、科目106と科目108の内容も振り返り、考え方と知識の定着を図ります。講義では、講師の解説に加えて、受講生同士の意見交換を通して、実習に期待することや留意すべき点等について共通理解をはかります。				
受講方法	<input checked="" type="checkbox"/> オンライン双方向授業 ZOOM アプリを使った同時配信・参加型の授業です。 マイクで声を出せる環境を準備ください。カメラで顔を出せる環境を推奨します。 (ZOOM の ID は、『eden』のお知らせ機能を通じて、通知します) ※講義を録画し、後日、期間中いつでも視聴できるようにします。				
事前に読んでおく 授業の理解の手助け になる図書	これまでの講義、特に科目 106、科目108、科目110、科目 112 の「奄美の環境文化の基礎」シリーズ、および、科目 103「生涯学習支援論」について復習しておくといでしょう。				
自己紹介	科目101と科目 106 に同じ				
受講生へ一言	奄美環境文化実習に臨む直前のオンライン双方の授業となります。実習の目的や内容の詳細のほか、当日の集合や解散時間等のスケジュールについても確認しますので、ぜひ参加するようにしてください。				

## 行政・奄美〈環境文化〉教育プログラム

### シラバス

科目群3	環境文化実習				
科目番号	118	科目名	質的調査の技法2	時間数	1 時間
担当講師	小栗 有子				
所属・職名	鹿児島大学法文学部・教授				
目的・内容	<p>本講義は、「奄美環境文化実習2(徳之島)」(科目 118)に向けた事前学習の一環として実施します。講義では、実習において課長インタビューを行うことを踏まえて、社会調査(質的調査)の技法の基礎について解説し、何を目的にどのような観点に留意して準備をすればよいかについて理解を深めます。講義の目的は、課長インタビューに向けて準備し、よりよい内容にするために必要な知見を得ることですが、量的調査と質的調査の違いの基本をおさえるなど、行政実務や日常生活においても参考にしてもらえたいことを目指します。なお、本講義では、「奄美環境文化実習1(喜界島)」(科目 116)の経験を振り返る時間を設ける予定です。</p>				
受講方法	<p><input checked="" type="checkbox"/>オンライン双方向授業          ZOOM アプリを使った同時配信・参加型の授業です。          マイクで声を出せる環境を準備ください。カメラで顔を出せる環境を推奨します。          (ZOOM の ID は、『eden』のお知らせ機能を通じて、通知します)          ※講義を録画し、後日、期間中いつでも視聴できるようにします。</p>				
事前に読んでおく 授業の理解の手助け になる図書	<p>三井さよ・三谷はるよほか『はじめての社会調査』世界思想社          岸政彦・石岡丈昇・丸山里美『質的社会調査の方法』有斐閣ストゥディア          佐藤郁也『社会調査の考え方(上)(下)』東京大学出版会          宮内泰介『自分で調べる技術』岩波アクティブ新書 117、岩波書店</p>				
自己紹介	科目101と同じ				
受講生へ一言	<p>質的調査の技法は、二つの実習を挟んで、1と2が開講されます。技法2は、技法1を踏まえて新しい内容を提供する予定ですので、社会の実習に参加しない受講生も必ず受講するようにしてください。</p>				

## 行政・奄美〈環境文化〉教育プログラム

### シラバス

科目群3	環境文化実習				
科目番号	119	科目名	奄美環境文化実習2(徳之島)	時間数	15 時間
担当講師	小栗 有子 ・ 高梨 修				
所属・職名	鹿児島大学法文学部・教授 鹿児島大学法文学部附属「鹿児島の近現代」教育研究センター・客員研究員 兼大和村教育委員会環境文化学芸員				
目的・内容	<p>実習の目的は、座学の講義で修得した〈環境文化〉に関する学知(学際的な知識/科学知)を実際に島に訪れて、身体感覚をもって確認し、〈環境文化〉理解の深め方と生かし方について実地で学ぶことです。実習では、今後の行政施策という観点から、〈環境文化〉の価値を理解し、その生かし方について、島・シマ毎の個性を踏まえたうえで、共通の課題や連携の在り方についても模索します。</p> <p>実習では、目に見えない世界である島民の心性に触れながら、次の事柄を体験的に学習します。①島・シマの自然の地理特性と歴史を知る、②生きた環境文化を体験する、③人と出会う(想いを知る)、④想いや考え・学びを共有する。また、環境文化は、過去のみを継承するだけでなく、現代に合わせて創造していくことが求められており、島・シマがこれから考えていくべき課題や論点をとりあげ、受講生が島民と共に考える機会を用意します。</p>				
受講方法	<input checked="" type="checkbox"/> 対面授業 現地集合、現地解散となります。移動手段や宿泊は、各自で手配・負担してください。詳細は、e ラーニング学習管理システム(LMS)『eden』で確認ください。				
事前に読んでおく授業の理解の手助けになる図書	事前学習の回である科目 117、並びに、科目 103 と科目 118 を視聴の上参加するようにしてください。また、科目 106、科目 108、科目 110、科目 112 を復習しておくといでしょう。				
自己紹介	科目101 と科目 106 に同じ				
受講生へ一言	五感を研ぎ澄まし、全身で奄美の環境文化を学び、大いに語り合いましょ う！				

## 行政・奄美〈環境文化〉教育プログラム

### シラバス

科目群4	地域分析の基礎				
科目番号	120	科目名	持続可能な地域経営1 －地域人口の安定化に向けて－	時間数	1 時間
担当講師	藤山 浩				
所属・職名	一般社団法人 持続可能な地域社会総合研究所・所長				
目的・内容	<p>テーマ「自治体と地区の定住戦略を考える」</p> <p>持続可能な地域経営を、地域人口の安定化を考える中で具体的に考えていきます。実際に奄美 12 市町村の人口分析例とその診断手法を紹介し、その違いや特色を解説します。そして、全国の先進事例を紹介する中で、長期的な地域人口の安定化を実現する道筋を考えていきます。</p>				
受講方法	<p><input checked="" type="checkbox"/>島集合(対面)授業</p> <p>奄美大島、喜界島、徳之島、沖永良部島、与論島の 5 つの島毎に対面会場を設け、受講生は最寄りの会場に集まり、5 つの島をオンラインでつなぐ授業です。 (ZOOM の ID は、『eden』のお知らせ機能を通じて、通知します) ※講師は、奄美大島会場から参加します。</p>				
事前に読んでおく授業の理解の手助けになる図書	<ul style="list-style-type: none"> <li>●「田園回帰1%戦略 － 地元にと仕事を取り戻す－」、2015 年、藤山 浩 著</li> <li>●「『地域人口ビジョン』をつくる」、2018 年、藤山 浩 編著</li> <li>●「日本はどこで間違えたのか～コロナ禍で噴出した「一極集中」の積弊」、2020 年、藤山 浩 著、河出書房新社</li> </ul>				
自己紹介	<p>1959 年、島根県益田市生まれ。一橋大学経済学部卒業。博士(マネジメント)。島根県中山間地域研究センター等を経て 2017 年より現職。2023 年度より上越市創造行政研究所所長を兼務。総務省地域力創造アドバイザー他、国・県委員多数。専門は、中山間地域政策、未来社会論、地域計画、地域分析(人口・経済)、地域づくり支援。</p>				
受講生へ一言	<p>故郷の島根に帰り、そこから全国を巡り、持続可能な地域社会づくりを呼び掛けています。奄美は、「小さな小宇宙」のような集落(シマ)ごとの循環圏が息づいていますね。私は、世界は無数の地元で出来ている。だから、強くて美しいと信じています。地元で記憶と風景を伝えていきましょう！</p>				

## 行政・奄美〈環境文化〉教育プログラム

### シラバス

科目群4	地域分析の基礎				
科目番号	121	科目名	持続可能な地域経営演習1	時間数	1.5時間
担当講師	藤山 浩 ・ 小栗 有子				
所属・職名	一般社団法人 持続可能な地域社会総合研究所・所長 鹿児島大学法文学部・教授				
目的・内容	科目120「持続可能な地域経営1ー人口の安定するシミュレーション」の講義を踏まえ、実際に自分が暮らす奄美地域の市町村の人口分析シートを自分のパソコンで動かす中で、研修生自ら人口安定化のシナリオづくり(具体的な男女年代ごとの定住増加目標設定など)の演習を行います。				
受講方法	<input checked="" type="checkbox"/> 島集合(対面)授業 奄美大島、喜界島、徳之島、沖永良部島、与論島の 5 つの島毎に対面会場を設け、受講生は最寄りの会場に集まり、5 つの島をオンラインでつなぐ授業です。 (ZOOM の ID は、『eden』のお知らせ機能を通じて、通知します) ※講師は、奄美大島会場から参加します。 <u>※事前に送信する市町村ごとの人口分析シートを自分のパソコンにダウンロードした上で、当日そのパソコン持参で参加ください。</u>				
事前に読んでおく授業の理解の手助けになる図書	●「田園回帰1%戦略 - 地元にと仕事を取り戻す-」、2015年、藤山 浩 著 ●「『地域人口ビジョン』をつくる」、2018年、藤山 浩 編著 ●「日本はどこで間違えたのか〜コロナ禍で噴出した「一極集中」の積弊」、2020年、藤山 浩 著、河出書房新社				
自己紹介	科目 120 と同じ。				
受講生へ一言	科目 120 と同じ。				

## 行政・奄美〈環境文化〉教育プログラム

### シラバス

科目群4	地域分析の基礎				
科目番号	122	科目名	持続可能な地域経営総合討論1	時間数	1時間
担当講師	藤山 浩 ・ 小栗 有子				
所属・職名	一般社団法人 持続可能な地域社会総合研究所・所長 鹿児島大学法文学部・教授				
目的・内容	科目120「持続可能な地域経営1ー人口の安定するシミュレーション」、および、科目121「持続可能な地域経営演習1」の講義を受けて、各自治体のシミュレーション結果を発表・共有します。また、発表に対する受講生、および、講師からのフィードバックをもらうことで、相互理解を深め、理解の定着を図ることを目的に実施します。				
受講方法	<input checked="" type="checkbox"/> 島集合(対面)授業 奄美大島、喜界島、徳之島、沖永良部島、与論島の 5 つの島毎に対面会場を設け、受講生は最寄りの会場に集まり、5 つの島をオンラインでつなぐ授業です。 (ZOOM の ID は、『eden』のお知らせ機能を通じて、通知します) ※講師は、奄美大島会場から参加します。 <u>※事前に送信する市町村ごとの人口分析シートを自分のパソコンにダウンロードした上で、当日そのパソコン持参で参加ください。</u>				
事前に読んでおく授業の理解の手助けになる図書	●「田園回帰1%戦略 - 地元にと仕事を取り戻す-」、2015年、藤山 浩 著 ●「『地域人口ビジョン』をつくる」、2018年、藤山 浩 編著 ●「日本はどこで間違えたのか〜コロナ禍で噴出した「一極集中」の積弊」、2020年、藤山 浩 著、河出書房新社				
自己紹介	科目 120 と同じ。				
受講生へ一言	科目 120 と同じ。				

## 行政・奄美〈環境文化〉教育プログラム

### シラバス

科目群4	地域分析の基礎				
科目番号	123	科目名	地域博物館と自治体誌の活用	時間数	1.5 時間
担当講師	農中 至 ・ 高梨 修				
所属・職名	法文学部法経社会学会・准教授 鹿児島大学法文学部附属「鹿児島の近現代」教育研究センター・客員研究員 兼大和村教育委員会環境文化学芸員				
目的・内容	この講義は、奄美〈環境文化〉を考える際の手引きとなる自治体誌(集落誌、字誌、自治体誌、郷土誌(史))の活用方法および地域博物館が地域の未来を見通す際にどのような意義を持つのかを考える内容です。自治体の政策立案に資する地域博物館と自治体資料の有効な活用方法を理解することを目的とします。				
受講方法	<input checked="" type="checkbox"/> 動画視聴授業 e ラーニング学習管理システム(LMS)『eden』から視聴してください。 ※受講後は、アンケート形式のレポートに取り組み、提出してください。				
事前に読んでおく授業の理解の手助けになる図書	名瀬市大熊壮年団編『大熊誌』名瀬市大熊壮年団、1964 名瀬市誌編集委員会編『名瀬市誌』名瀬市、1968 小林文人・島袋正敏編『おきなわの社会教育』エイデル研究所、2002 末本誠『沖縄のシマ社会への社会教育的アプローチ』福村出版、2013				
自己紹介	専門は、社会教育学と社会教育史です。中央に対する地方の社会教育の動態に関心があり、戦後の社会教育なるものが今日までどのように推移・変化してきたのかを研究しています。2010 年台半ばから本格的に奄美・沖縄の占領期社会教育・青年団の研究に着手しはじめたところです。				
受講生へ一言	日常の暮らしと生活、労働のなかで見過ごしがちな地域の資料や記憶保管施設(地域博物館)にあらためて出会いなおすことで、これからの社会づくり・地域づくりを展望していけるような発想を獲得していきましょう。未来を見据えるためには過去を振り返る必要があります。				

## 行政・奄美〈環境文化〉教育プログラム

### シラバス

科目群4	地域分析の基礎				
科目番号	124	科目名	地域博物館と自治体誌活用 総合討論	時間数	1時間
担当講師	農中 至・高梨 修				
所属・職名	法文学部法経社会学会・准教授 鹿児島大学法文学部附属「鹿児島の近現代」教育研究センター・客員研究員 兼大和村教育委員会環境文化化学芸員				
目的・内容	この講義は、科目123を踏まえた総合討論になります。地域博物館と自治体誌(自治体および集落の記録群)の活用をめぐって、どのような理想的な方法があるか、地域においてどのような館と資料の活かし方があり得るのか、諸資源を自治体政策形成にどのように結びつけるのかを総合的に議論していくことを目的とします。				
受講方法	<input checked="" type="checkbox"/> オンライン双方向授業 ZOOM アプリを使った同時配信・参加型の授業です。 マイクで声を出せる環境を準備ください。カメラで顔を出せる環境を推奨します。 (ZOOM の ID は、『eden』のお知らせ機能を通じて、通知します) ※講義を録画し、後日、期間中いつでも視聴できるようにします。				
事前に読んでおく 授業の理解の手助け になる図書	科目 123 と同じ。				
自己紹介	科目 123 と科目 106 と同じ。				
受講生へ一言	科目 123 と同じ。				

## 行政・奄美〈環境文化〉教育プログラム

### シラバス

科目群4	地域分析の基礎				
科目番号	125	科目名	持続可能な地域経営2 －所得を取り戻す地域内循環	時間数	1時間
担当講師	藤山 浩				
所属・職名	一般社団法人 持続可能な地域社会総合研究所・所長				
目的・内容	<p>テーマ「地域経済循環を創出する～地元への所得効果を確認する」</p> <p>地方の市町村では、域外からの食料やエネルギー、原料、サービスへの依存度が高まっています。そのため、せっかく稼いだ地元の所得の多くが「穴の開いたバケツ」のように漏れ出している事例がよく見られます。地域の経済循環の現状と課題をデータや全国事例を基にわかりやすく解説し、これから地域内経済循環を強化していく中で、地元へ所得を取り戻していく方策を解説します。</p>				
受講方法	<p><input checked="" type="checkbox"/>島集合(対面)授業</p> <p>奄美大島、喜界島、徳之島、沖永良部島、与論島の5つの島毎に対面会場を設け、受講生は最寄りの会場に集まり、5つの島をオンラインでつなぐ授業です。 (ZOOMのIDは、『eden』のお知らせ機能を通じて、通知します)</p>				
事前に読んでおく授業の理解の手助けになる図書	<ul style="list-style-type: none"> <li>●『『小さな拠点』をつくる』、2019年、藤山 浩 編著</li> <li>●『『循環型経済』をつくる』、2018年、藤山 浩 編著</li> <li>●『日本はどこで間違えたのか～コロナ禍で噴出した「一極集中」の積弊』、2020年、藤山 浩 著、河出書房新社</li> </ul>				
自己紹介	科目120と同じ。				
受講生へ一言	科目120と同じ。				

## 行政・奄美〈環境文化〉教育プログラム

### シラバス

科目群4	地域分析の基礎				
科目番号	126	科目名	持続可能な地域経営演習2	時間数	1.5時間
担当講師	藤山 浩 ・ 小栗 有子				
所属・職名	一般社団法人 持続可能な地域社会総合研究所・所長 鹿児島大学法文学部・教授				
目的・内容	科目125「持続可能な地域経営2－所得を取り戻す地域内循環」の講義を踏まえ、実際に各市町村でヒアリング調査した事例に基づき、地域内経済循環の効果を算出する演習を行います。				
受講方法	<input checked="" type="checkbox"/> 島集合(対面)授業 奄美大島、喜界島、徳之島、沖永良部島、与論島の 5 つの島毎に対面会場を設け、受講生は最寄りの会場に集まり、5 つの島をオンラインでつなぐ授業です。 (ZOOM の ID は、『eden』のお知らせ機能を通じて、通知します) ※講師は、徳之島会場から参加します。 ※「持続可能な地域経営」の講義時に説明・配布したヒアリングシートと演習シートを自分のパソコンにダウンロードいただき、ヒアリングシートに所定の結果をまとめた上で、当日パソコン持参でご参加ください。				
事前に読んでおく授業の理解の手助けになる図書	<ul style="list-style-type: none"> <li>●『『小さな拠点』をつくる』、2019 年、藤山 浩 編著</li> <li>●『『循環型経済』をつくる』、2018 年、藤山 浩 編著</li> <li>●「日本はどこで間違えたのか～コロナ禍で噴出した「一極集中」の積弊」、2020 年、藤山 浩 著、河出書房新社</li> </ul>				
自己紹介	科目 120 と同じ。				
受講生へ一言	科目 120 と同じ。				

## 行政・奄美〈環境文化〉教育プログラム

### シラバス

科目群4	地域分析の基礎				
科目番号	127	科目名	持続可能な地域経営総合討論2	時間数	1 時間
担当講師	藤山 浩 ・ 小栗 有子				
所属・職名	一般社団法人 持続可能な地域社会総合研究所・所長 鹿児島大学法文学部・教授				
目的・内容	科目 125「持続可能な地域経営2－所得を取り戻す地域内循環」、および、科目126「持続可能な地域経営演習1」の講義を受けて、各自治体の地域内経済循環の効果を算出の結果を発表・共有します。また、発表に対する受講生、および、講師からのフィードバックをもらうことで、相互理解を深め、理解の定着を図ることを目的に実施します。				
受講方法	<input checked="" type="checkbox"/> 島集合(対面)授業 奄美大島、喜界島、徳之島、沖永良部島、与論島の 5 つの島毎に対面会場を設け、受講生は最寄りの会場に集まり、5 つの島をオンラインでつなぐ授業です。 (ZOOM の ID は、『eden』のお知らせ機能を通じて、通知します) ※講師は、徳之島会場から参加します。 ※「持続可能な地域経営」の講義時に説明・配布したヒアリングシートと演習シートを自分のパソコンにダウンロードいただき、ヒアリングシートに所定の結果をまとめた上で、当日パソコン持参でご参加ください。				
事前に読んでおく授業の理解の手助けになる図書	<ul style="list-style-type: none"> <li>●『『小さな拠点』をつくる』、2019 年、藤山 浩 編著</li> <li>●『『循環型経済』をつくる』、2018 年、藤山 浩 編著</li> <li>●「日本はどこで間違えたのか～コロナ禍で噴出した「一極集中」の積弊」、2020 年、藤山 浩 著、河出書房新社</li> </ul>				
自己紹介	科目120と同じ。				
受講生へ一言	科目 120 と同じ。				

## 行政・奄美〈環境文化〉教育プログラム

### シラバス

科目群5	環境文化特論～行政施策をつなぐ				
科目番号	128	科目名	環境文化から考える福祉	時間数	1 時間
担当講師	濱田 洋一郎 ・ 高梨 修				
所属・職名	元奄美市総務部長 鹿児島大学法文学部附属「鹿児島近現代」教育研究センター・客員研究員 兼大和村教育委員会環境文化学芸員				
目的・内容	<p>この講義は、これまで学んできた奄美〈環境文化〉の考え方や理解を行政施策にどのように生かすことができるかについて、様々なアイデアを得ながら考えることができるようになることを目的としています。講義では、奄美群島の自治体で長年福祉行政の実務に携わってきた方にインタビューを行うことを通して、次に挙げる内容を考えていきます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・奄美〈環境文化〉の考え方や理解の視点に立つと、行政施策としての福祉の見え方や取り組み方はどのように変わるのだろうか。</li> <li>・奄美〈環境文化〉の考え方や理解を深めることで、行政施策にどのように影響を与え、どのような効果を期待することができるか。</li> <li>・奄美群島間の比較を通して見えてきた出身の自治体や島の特性や個性を行政施策にどのように生かしていったらよいだろうか。</li> </ul>				
受講方法	<p><input checked="" type="checkbox"/>動画視聴授業</p> <p>e ラーニング学習管理システム(LMS)『eden』から視聴してください。 ※動画は、順番にそって期間内に視聴してください。</p>				
事前に読んでおく 授業の理解の手助け になる図書	講義の中で紹介します。				
自己紹介	科目106と同じ インタビュー対象者は、講義中に紹介します。				
受講生へ一言	科目106と同じ				

## 行政・奄美〈環境文化〉教育プログラム

### シラバス

科目群5	環境文化特論～行政施策をつなぐ				
科目番号	129	科目名	環境文化から考える観光まちづくり	時間数	1 時間
担当講師	中村 修 ・ 小栗 有子				
所属・職名	特定非営利活動法人TAMASU・理事長 鹿児島大学法文学部法経社会学科・教授				
目的・内容	<p>この講義は、これまで学んできた奄美〈環境文化〉の考え方や理解を行政施策にどのように生かすことができるかについて、様々なアイデアを得ながら考えることができるようになることを目的としています。講義では、奄美群島の自治体で行政経験を持ちながらシマの観光まちづくりに携わる方にインタビューを行うことを通して、次に挙げる内容を考えていきます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・奄美〈環境文化〉の考え方や理解の視点に立つと、行政施策としての観光まちづくりの見え方や取り組み方はどのように変わるのだろうか。</li> <li>・奄美〈環境文化〉の考え方や理解を深めることで、行政施策にどのように影響を与え、どのような効果を期待することができるか。</li> <li>・奄美群島間の比較を通して見えてきた出身の自治体や島の特性や個性を行政施策にどのように生かしていったらよいだろうか。</li> </ul>				
受講方法	<p><input checked="" type="checkbox"/>動画視聴授業</p> <p>e ラーニング学習管理システム(LMS)『eden』から視聴してください。 ※動画は、順番にそって期間内に視聴してください。</p>				
事前に読んでおく 授業の理解の手助け になる図書	講義中に紹介します。				
自己紹介	科目101に同じ。 インタビュー対象者は、講義に紹介します。				
受講生へ一言	科目101に同じ。				

## 行政・奄美〈環境文化〉教育プログラム

### シラバス

科目群5		環境文化特論～行政施策をつなぐ			
科目番号	130	科目名	環境文化から考える地域	時間数	1 時間
担当講師	高岡 秀規 ・ 小栗 有子				
所属・職名	徳之島町役場・町長 鹿児島大学法文学部法経社会学科・教授				
目的・内容	<p>この講義は、これまで学んできた奄美〈環境文化〉の考え方や理解を地域の政策や施策にどのように生かすことができるかについて、様々なアイデアを得ながら考えることができるようになることを目的としています。講義では、奄美群島の自治体長(予定)にインタビューを行うことを通して、次に挙げる内容を考えていきます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・奄美〈環境文化〉の考え方や理解の視点に立つと、地域政策の見え方や取り組み方はどのように変わるのだろうか。</li> <li>・奄美〈環境文化〉の考え方や理解を深めることで、地域政策にどのように影響を与え、どのような効果を期待することができるか。</li> <li>・奄美群島間の比較を通して見えてきた出身の自治体や島の特性や個性を地域政策にどのように生かしていったらよいだろうか。</li> </ul>				
受講方法	<p><input checked="" type="checkbox"/>動画視聴授業</p> <p>e ラーニング学習管理システム(LMS)『eden』から視聴してください。 ※動画は、順番にそって期間内に視聴してください。</p>				
事前に読んでおく授業の理解の手助けになる図書	講義中に紹介します。				
自己紹介	<p>科目101に同じ。</p> <p>インタビュー対象者は、講義に紹介します。</p>				
受講生へ一言	科目101に同じ。				

## 行政・奄美〈環境文化〉教育プログラム

### シラバス

科目群 5	環境文化と行政施策をつなぐ				
科目番号	131	科目名	環境文化から考える 奄美群島振興開発	時間数	1 時間
担当講師	陸川 諭 ・ 吉沢 伸一 ・ 小栗 有子ほか				
所属・職名	鹿児島県庁総務部財政課・課長 元喜界町役場総務課・課長 鹿児島大学法文学部法経社会学科・教授				
目的・内容	この講義は、これまで学んできた奄美〈環境文化〉の考え方や理解を行政施策に生かすという観点から奄美群島振興開発(法制度・計画・基金)の歴史と現状について理解を深めます。そのことを通して、奄美群島振興開発の特徴を踏まえ、奄美群島の未来を見据えながら今後の生かし方についての考えや方法について検討します。講義では、奄美群島振興開発に実務者として携わってきた方へのインタビューを通して、明らかにしていきます。				
受講方法	<input checked="" type="checkbox"/> 動画視聴授業 e ラーニング学習管理システム(LMS)『eden』から視聴してください。 ※動画は、各10分程度の動画が4～7本あります。順番にそって期間内に視聴してください。				
事前に読んでおく 授業の理解の手助け になる図書	講義中に紹介します。				
自己紹介	科目101に同じ。 インタビュー対象者は、講義に紹介します。				
受講生へ一言	科目101に同じ。				

## 行政・奄美〈環境文化〉教育プログラム

### シラバス

科目群 5	環境文化と行政施策をつなぐ				
科目番号	132	科目名	環境文化から考える 世界自然遺産1	時間数	1 時間
担当講師	平城 達哉				
所属・職名	奄美市立奄美博物館 主任学芸員				
目的・内容	奄美大島・徳之島が世界自然遺産および国立公園に指定された理由を概説するとともに、奄美群島の生物相・植物相の特徴を概観する。これにより、地域の自然的価値とその保全の意義について理解を深める。				
受講方法	<input checked="" type="checkbox"/> 動画視聴授業 e ラーニング学習管理システム(LMS)『eden』から視聴してください。 ※動画は、各10分程度の動画が4～7本あります。順番にそって期間内に視聴してください。				
事前に読んでおく 授業の理解の手助け になる図書	・世界自然遺産登録推薦書(奄美大島・徳之島) ・奄美博物館編『博物館が語る奄美の自然・歴史・文化』、2021年、南方新社				
自己紹介	奄美市立奄美博物館の学芸員として、奄美群島の自然史や生物多様性に関する調査研究、教育普及活動に従事している。				
受講生へ一言	奄美の自然は、世界的にも評価された独自の価値を有しています。その背景にある特徴や魅力を、基礎から分かりやすくお伝えします。				

## 行政・奄美〈環境文化〉教育プログラム

### シラバス

科目群 5	環境文化と行政施策をつなぐ				
科目番号	133	科目名	環境文化から考える 世界自然遺産2	時間数	1 時間
担当講師	八重樫 忠郎				
所属・職名	岩手県文化振興事業団 平泉世界遺産ガイダンスセンター長				
目的・内容	<p>平泉の世界遺産登録に至る過程を、行政実務の視点から学ぶ。</p> <p>講師は、文化財担当職員として発掘調査と学術的評価の蓄積に携わり、その成果を基盤に世界遺産登録に挑んだが、登録延期勧告を受けるという困難を経験した。その後、課題の再整理と体制の見直しを経て再挑戦し、世界遺産登録を実現している。本講義ではこの「挑戦・挫折・再挑戦」の過程を軸に、世界遺産がどのように行政課題として共有され、庁内各部署（総務・企画・観光・建設等）と連携しながら推進されていったのか、講師の異動部署を辿りながら具体的に考察する。文化財行政を核としつつ、まちづくりや地域振興へと展開していく実践的プロセスを理解することを目的とする。</p>				
受講方法	<p><input checked="" type="checkbox"/>動画視聴授業</p> <p>e ラーニング学習管理システム(LMS)『eden』から視聴してください。</p> <p>※動画は、各10分程度の動画が4～7本あります。順番にそって期間内に視聴してください。</p>				
事前に読んでおく 授業の理解の手助け になる図書	ウェブサイト「平泉を訪れる—そして—平泉で暮らす」「平泉世界遺産ガイダンスセンター センター長・八重樫忠郎さんインタビュー」				
自己紹介	<p>平泉町役場において文化財担当として発掘調査に従事し、2000年から平泉町世界遺産推進室で登録業務に関わる。登録延期を経た再挑戦により、2011年の世界遺産登録を実現した。その後、建設水道課、総務企画課課長補佐を経て、まちづくり推進課長、観光商工課長を歴任し、行政の多分野から世界遺産と地域政策に関与。退職後、現職。日本全国で講演、研修等の指導も続けている。文学博士。代表著作に、八重樫忠郎『北のつわもののが都・平泉』、新泉社、2015年。八重樫忠郎『平泉の考古学』、高志書院、2019年など。著書多数。</p>				

受講生へ一言	世界遺産の登録は一度で達成できるものとは限らず、多くの試行錯誤と組織的な努力の積み重ねの上に成り立っています。現場で直面した課題や葛藤も含めて、行政としてどのように乗り越えていったのかを率直にお伝えしたいと思います。
--------	--------------------------------------------------------------------------------------------------------------